

# 高退協ニュース

高知高退協  
事務局  
1997-7-15  
No.87

高知高等専門学校退職教職員協議会  
高知市丸の内二丁目一の二  
TEL 088-812-1682  
FAX 088-812-1683  
振替口座 徳島 511-1893

## 全退教 第7回定期総会開く



着実な前進を確認

去る六月五日(木)、東京都内で、全国39組織から72名の代表が出席して、第七回全退教定期総会が開催されました。

## 第五回四プロ交流集会

10月21・22日  
愛媛県北条市で

昨秋、高知県夜須町の民宿舎に百名以上の参加で成功した全退教四国プロック交流集会は、今年も愛媛県北条市の鹿島国民宿舎で10月21・22日開催されることになりました。

四国の仲間との交流はもちろん、釣り、散歩、文化財見学など楽しい行事が予定されています。会費一万円。振るってご参加を。

## 過去最高(34.9%)でスタート

今春の退職者のうち17名が高退協に加入しました。その結果、今年度の高退協は過去最高の三四九名の会員でスタートすることになりました。

## 夏季学習講座 案内

今年もまた学習講座が近づきました。恒例の懇親会ももたれますので、ぜひ多くのご参加を願っております。

記

日時 1997年8月28日(木)

午後2時～4時30分

場所 高知城ホール 2階 会議室

内容 ・高橋 正氏「自由民権と文学」  
・医療生協(講師未定)

「高齢者の健康について」

※続いて5時より懇親会をもちます。会費は5,000円。ご参加の方は8月23日までに係へ頂を。  
(75-4564加藤・44-0333窪田・08875-2-5617溝淵)

③組織拡大と運営の一層の民主化など。  
詳細は後日、全退教ニュースに記載予定。  
(岡崎記)

## 研修旅行のご案内

私たちの中には、程度の差はあれ、体に不自由を感じておられる方も多いと思います。また、お年寄りをかかえて、家を空けるのもままならない方もおられます。

こうした方々も参加し易いように、高退協は、初日朝出発、翌夕刻帰着という約一日半の日程で毎年研修旅行を企画しています。

今年度は、岡山県総社市がメインです。全国四方、方九の巨大前方後円墳の作山、造山をはじめとする古墳群、四道將軍の一人ゆかりの吉備津、吉備津彦神社、有名な五重の塔の備中国分寺、三大稻荷の最上稻荷、水攻めの高松城址など国宝、重文の建造物や古代から近世の史跡を辿ります。

泊は、美作三湯の一つ湯郷11ランドホテルで疲れをと、懇親を深めます。あと、古い神社、佛閣が多く、近世の街並を残す津山にも。詳しい行程は9月のニュースでお知らせしますが十一月十一日(火)朝発、十二日(水)夕刻六時頃帰着するようになっています。多数のご参加を切におねがいいたします。尚担当は、次の四名です。

- 溝淵和江 (08875-1215617)
- 西田令子 (4212070)
- 竹島寛之 (3211097)
- 窪田一郎 (4410333)

## 訃報

会員の乾 澄男先生が五月二十九日に死去されました。  
ご冥福を心からお祈り申し上げます。

※国民の育成を期して行わなければならない(教基法第1条)(チ)

## 老声草

大抵のことには驚かなくなつた。今だが、土師淳君殺害の容疑者が中学生だったことに、言いようのない衝撃を受けた。しかも学校への深い恨みが動機だった可能性が大きい。その前日は、長崎を訪ねた研修旅行の中学生が、原爆の語り部に暴言を吐き、あめ玉を投げつけたという新聞記事に驚かされたばかりだった。

「まさか」という思いと「やはり」という思いが複雑に交錯する。

その三日前、中教審は大学への「飛び入学」や公立中高一貫校の部分導入を答申、すべての子どもに国民的教養の基礎を保障する教育を「画一化」として退け、少数の「できる子」と「そうでない子」を分けて教育する学校の複線化を打ち出した。

経済成長のための人的資源を確保するための競争と選別の教育政策は、子どもたちの人格形成に深刻な荒廃をもたらした。にも拘らず答申は、反省どころか、競争と選別を小学校にまでおよぼそうとする。

「やはり」という思いがあるのもそのせいである。「土佐の教育改革を考える会」の提起も、刷新への可能性をはらみながらも、経済成長至上主義の虚妄が見え隠れする。採用における企業経験者の優遇や企業研修への固執がそれである。確かに戦後、企業からの転身は多く、教師集団は多彩だった。しかし多くは企業の営利とは異質の教育の営みに働きがいを見いだした。その反省が教育を豊かにした。

政府がめざす経済成長のキイは「規制緩和」であり、大企業による弱肉強食の「自由」であつて、すでに医療、年金の削減など弱者への攻撃が始まつた。学校教育もまた、資本の手段に墮したのでは、子どもたちを育てる力を失う。「教育は……」

真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、心身ともに健康な※

「素東寺日記」抄  
坪井 幹之

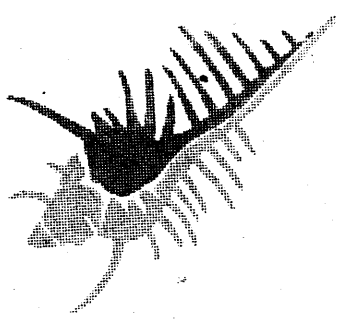
五月

「八日」県退教、退協協、高退協三者の集まりあり。他用のため遅れて出席。内容は、「土佐の教育を考える会」への対応について。「開かれた学校づくり」の運動化にあたっては、高退協としても慎重な討議が必要であろう。

「九日」「老泳会」全員参加。筆山もすっかり新緑の装い。

「十一日」「山の会」の例会で中津明神へ。参加者二十名。上名野川スカイパークより登る。相当な急登が続く。女性のみなさん、頂上近くに残るイタドリを採取。二時間少々で山頂に。次第に天候回復、青空が広がる。記念写真、昼食。頭上を舞うパラグライダーを見ながら下山。帰途、中津溪谷新設の「ゆの森」で入湯。

「十三日」ニュース五月号の発送準備をすまして事務局会議。新しい事務局体制(任務分担)など十項目の議題につ



旅のしおり

東北の桜

「素東寺日記」より

四月二十八日 高知空港より羽田へ。延着で予定のミニ新幹線「こまち」に乗れず、全日空手配の航空便で秋田へ。その夜は雪の田沢湖高原温泉に泊まる。乳頭温泉の引き湯を楽しむ。

四月二十九日 角館観光。

咲き誇る松内川堤の桜並木、武家屋敷の枝垂れ桜を見て廻る。街は観光客で一杯。桜に酔いしれた感。「わらび座」経営の温泉ホテルで宿泊。

四月三十日 秋田内陸鉄道で弘前へ。早速、弘前城の下見聞。桜は満開、本格的な鑑賞は明日にして、早々予約のシティホテルに入る。

五月一日 快晴。朝早く城

いて協議。終了後、五時から歓送迎会。「窪田さん」苦勞さま、古味さん、西田さんよろしく……と事務局、顧問、監査委、役選委、二十名参加の盛会。つい痛飲。

「二十三日」「老泳会」。この二、三日異常天候。今日から雨体始まる。

「二十四日」第四〇回読書会。いろいろ差し支えがあつて参加者は五名。テキストは「日本の戦争責任」と「少年H」。それぞれの体験を軸に戦争を指導した軍部の愚かさ、天皇の戦争責任、それらを支えた「国民総動員体制」で果たした教育・マスコミの役割などを語りあう。あつという間の二時間。最後に、今回は中国問題について学習することを決めてお開き。文芸春秋編の「大中国はどうなる」が指定図書。

「三十日」「老泳会」に参加。

「六日」「老泳会」全員参加。入梅、アジサイ、タチアオイの花盛り。

「六日」「老泳会」全員参加。入梅、アジサイ、タチアオイの花盛り。

「六日」「老泳会」全員参加。入梅、アジサイ、タチアオイの花盛り。

「六日」「老泳会」全員参加。入梅、アジサイ、タチアオイの花盛り。

「六日」「老泳会」全員参加。入梅、アジサイ、タチアオイの花盛り。

に向かう。広大な城郭に数千本の桜の老木、その見事さは筆舌に尽くし難い。たしかに日本一の桜である。つくづく「桜は古城によく似合う」と思う。更に、本丸付近では秀麗な津軽富士が雪の衣をつけてバックに映える。月並みな言葉であるが、まさに一幅の名画。桜に堪能して弘前を去り、青森に出る。時間的余裕があつたので、「山内丸山遺跡」に立ち寄り、浅虫温泉へ。五月二日 帰高。念願の東北の桜を訪ねる旅は終わる。

『老眼鏡』

らん・ラン・RUN

上岡 積

今年退職の上岡積氏に「らん・ラン・RUN」という本をいただいた。昨年高知の記事で彼のランニングを知り、「あれあれ」と思っていたので早速読ませてもらった。三八才の肥満体の時一念発起、ジョギングからはじまって、鉄人レースといわれるトライアスロンに挑戦するまでに到るランニングへののめりこみが語られている。体験談だからか、本人を

「十日」二時から事務局会議。議題は九項目。任務分担にかかわってニュース発送事務の改善について議論百出、小委員会を検討することになる。その他、夏季学習講座、研修旅行の構想、会旗の新調問題などを協議。次回は会議終了後、暑氣払いをやることにして散会。

「十二日」「山の会」一行二十名、英国ツアーに出発。

「二十三日」無事、帰国。

(この英国の旅については機関誌「こうたいきょう」にリレー日記の形で報告の予定)

「二十八日」台風8号、日本列島を横断中。「県教組五十年記念レセプション」開かれる。動評闘争のさなか、県教組臨時執行部の一員として今は亡き熊沢昭二郎さんと情宣の仕事を担当、宣言文に

「不滅の高知県教組」と書いたことを思い出す。台風通過中にもかかわらず盛会、県教組への期待が大きいことを感ず。「黒潮は流れてやまず」

知っている故か、けつこう面白い。

よくそここまでやれるものと感嘆する内容だが、大上段にふりかぶったところがなく、語り口が軽妙でかつほぐえましい。奥さんはじめ子どもさん達の対応にもふれられているが、心暖まるものがある。

初期に科学的なトレーニング、走法を学んで感激するくだりがあるが、これがずっと続けられたきっかけだったようである。次から次に高い目標を設定し挑戦する姿には眼を見張らされる。フルマラソン(四二、一九五キロ)からウルトラマラソン(百キロ以上)はては二五〇キロのマラニックまでさんかしたという。完走のみでなくリタイヤももあり、伴う残念さ、苦痛、失敗なども語られているが、それがまた清々しい。

彼は好奇心旺盛でランニングだけでなく、なんでも「やってみようか」となるらしい。とりわけ自然のなかに身を投じることに衝動を覚えるようである。終わりの方に「憧れのアウトドアライフ」とあり、ここらで彼の真骨頂かなと思える。最後に「山の会に入つて」とあり、以前から卓球



家永教科書裁判に思う

家永教科書訴訟は、今年で三二年目を迎える。一九八八年二月九・一〇日、現沖縄県知事ら四名を証人に、那覇地裁で出張尋問が行われた。全国から二七一名が参加した。高知から二名が参加し、私は初めて沖縄戦の実相を直接聞いた。レセプションで、家永三郎さんから「高知は支援が弱いからと言われた。一九八九年一月三日、平和資料館「草の家」で、一〇三判決報告集会と高知県連再建集会を開き、今月で八月九日である。会員は七七名から出発し、現在一七三名で、内高教組が八一名と実に会員の四七、五%を占めている。

全国会議や集会・裁判傍聴も、高知県から参加した延べ一六名中一三名が、高教組教文部長の要請に応えている。今年に入って、高教組社会科教師が二名会員になって下さった。

四月二日の愛媛玉ぐし料事件の最高裁大法廷判決は、裁判官一五名中、一三名の圧倒的多数による違憲判決であり、司法の独立を取り戻した感がある。家永教科書訴訟は、七月一八日口頭弁論を開くことになった。

高教組が職場でも巷でも元氣なら、土佐の教育は健全だろう。小学校のジャージ卒業式、中学校の二〇分昼休み、高校のゼロ時間授業の強制などを、山小屋や畑に、わが身は置きながら憂い、高教組がオンブズマンとして、子供たちのために、がんばってほしいと願う。

(教科書裁判高知県連 和田明)

はなかなかのもの聞くし、最近ではテニスを手がけている。本人は「初物食い」と自称しているが、本来の彼の持ち味がそうさせるのである。自然や、身体活動に対する感受性の豊かさともいえる。最後に小生の小人物的感想「よくも、まあこれほどあちこちに出かけて行ったもんじゃ。ちゃんと仕事はできつろうか?」「私一人の「ひがみ」であろうか。」(一)

### 医療保険制度改悪さる

#### 九月一日から実施

橋本自民党内閣は、国民の強い反対の声（千八百万名署名）を無視し、とりわけ高齢者いじめの改悪を強行しました。その内容は次の通りです。

### これだけ増える国民の負担 97年9月1日から施行

いま		改悪案	
サラリーマン本人	1割		2割
お年寄り (70歳以上)			1回 500円 (月4回を上限)
外来 月	1020円		97年度1000円 98年度1100円 99年度1200円
入院 1日	710円		

外来の薬剤費上乘せ負担を新設	
(通常の薬剤費一部負担のほかに)	
内服薬 1種類	0円
2~3種類 1日	30円
4~5種類 1日	60円
6種類以上 1日	100円
外用薬 1種類	50円
2種類	100円
3種類以上	150円
頓服薬 1種類	10円
(6歳未満の乳幼児と住民税非課税世帯の老齢福祉年金受給者は免除)	

政府管掌健康保険の保険料率	8.2%	→	8.5%
---------------	------	---	------



政府管掌健康保険の保険料率 8.2%

今次改悪で、新設された「薬剤費二重取り」は、全く不都合であり、薬をもらうこと自体にペナルティー(罰)を受けるもので、高い日本の薬価を放置し、患者負担増による受診抑制で医療費を減らそうというものです。この改悪に伴う、退職互助会の対応については、中央機関で未決定であり、決定されしだい、会員に互助会から通知されるとのことです。(県教委福利課の話) (岡崎記)

### 相撲三三知識 二十一

林 勤

○禁手(きんて) 相撲の決まり手は「七十」と腰砕け、勇み足、である。と前書きいたが、実はもう一つの決まり方がある。それは、反則による勝ち、負けである。

日本相撲協会の相撲諸規則の中に、禁手に関するものがあり、「左の禁手を用いた場合は反則負けとする」とある。内容は、①握り拳で殴る、②頭髪を故意につかむ、③目または水月などの急所を突く、④両耳を同時に両手で張る、⑤前立樺をつかみ、また、横から指を入れて引く、⑥咽喉をつかむ、⑦胸、腹を折り返す、⑧一指または二指を折り返す、の八項目である。

を打った場合に、相手の頭を抑えつけるとよく決まる。この時、頭髪(以下マゲという)をつかむと勿論反則負けになる。ところが、一寸した拍子に指がマゲの中へ入って、動きが激しいので抜けないことがある。これを故意と見るかやむを得ないと見るか、むずかしいところである。こんな場合は勝負審判が協議をし、その時の状況によって反則か否かの判定を下す。相撲の流れの中で、たまに一発、二発の張り手が出るのは、土俵がびりりと締まり、活気づいてよいが、ただ何発も張り合うのは、どうも品がないように私は感じる。張り手といえ、現役では貴闘力、以前の力士では前田山(愛媛県、39代横綱)、幕内在位は昭和12年、24年、力道山(長崎県、最高位関脇)、幕内在位は昭和21年、25年、後プロレスの王者と

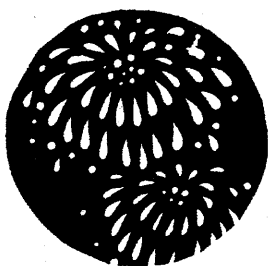
### 健康手帳

### 私の健康法

松田雛子



私は見かけによらず身体は弱い方で、今迄に身体にメスを入れたこと八回(小学校五年生にはじまり退職迄に六回、退職後二回)あります。いつも、めげたことのない私も退職後二年目につづけて二回の手術は、いささか体力のおとろえを感じました。すっかり回復したのは一年後、なにかよい運動方法はないものかと考えていました。運動神経はごく普通と自分では思っていました。が、全く踊ることにかけては、コンプレックスの塊の私、というのはいくつかあります。前、お寺の庭で盆踊の稽古をしている時、「下手じゃねえ」と言う声が、まわりで見えていた大人の中から聞こえてきました。てっきり自分のことだと思いきや、それ以来、学校の遊戯の時間は苦になり運動会の遊戯の間は間はいやでいやでたまりませんでした。そして五十年、日高養護学校に勤務中、



なる)らが頭に浮かぶ。前田山、力道山の相撲ぶりは、何時も張り手のように闘志溢れるものであった。特に力道山は、土俵の闘魂そのままの、39年の太く短い生涯であった。昭和30年5月場所から本勝負の制度ができてから十両以上での反則負けは八回あるが、何れもマゲをつかんだ、マゲに指が入ったなど、マゲに関するものばかりで、他の七項目はない。反則の場合の星取表は、普通のよう勝ち力士は○、負け力士は●と表示され、決まり手はほんそくと表示され、反則の内容は記入されていない。公の記録ではないが、相撲博物館の記録には、新聞などの記録をメモとして記入している(反則の内容が保存されている)。

### △会員の消息

(高橋正さん) 明治初年から現代までの文学史と作家群像をエッセー風に「高知の近代文学素描」悲傷と反骨の系譜」を出版 おめでとうございます。

(上岡積さん) 退職に際して今までの歩みを「へらん・ラン・Run」として出版されました。おめでとうございます。別稿

### 【おすすめの本】

小豆島 びるきや旅館

(〇八七九一八二一〇三三七) 「秦東寺日記」にふれてい宿です。安田の街はずれにあつて、やや交通の便はよくありませんが、島四国八十八カ所の霊場巡りの連絡宿で、気安く泊まれる庶民的な旅館です。

一泊六、〇〇〇円(サービスタ料込み、税別)と格安です。が料理はたっぷり、酒代も安く、暖かいもてなしが特徴です。(坪井)

### 空襲展

#### 「新たな出会いの旅」

梅原憲作



やっと今年のピースウエイプのメイン行事であり先導役である空襲展を6日終えた。今年の11行事のうち4つを終え、七夕と美術展

は進行中であるが、正直はつとして。後の私の役目は主として協力参加団体・個人に深々と頭を下げて協力金・カン

#### 「水無月句会」平成9年5月24日

土佐市宇佐・青龍寺

湧き水を引きし流れや鴨足草

みち代

隠れ沼の奥に隠れ沼布袋草

伸 秋

行滝を片手拌みに遍路過ぐ

さちを

揺れ合へる百幹すがし今年竹

みち代

何処からともなく清水湧く寺領

青 幹

香りくる定家葛の高きより

みち代

女坂かそけき音す竹落葉

みち代

軽ろやかに女ばかりの遍路鈴

青 幹

青蘆の奥に青蘆沼隠し

伸 秋

一と枝の香をたぐり寄せ忍冬

さちを

先を行き又見返しし遍路の子

さちを

万緑の風吹き渡る寺領かな

みち代

百段を一気に若き夏遍路

みち代

木道に声の弾けて時鳥

さちを

裏門は権現様へ鴨足草

みち代

#### 〈広告〉「山の会」行事

アンナブルナ・ダウラギリ  
ヒマヤマトレーシング

8月1日(金)～6日(水) 5泊6日  
日本百名山「木曾駒ヶ岳」と「空木岳」に登頂  
御嶽山山麓の「開田高原」に遊ぶ山旅  
(旅行費用 85,000円)

10月8日(水)～22日(水) 15日間  
二つの山城に入り、アンナブルナ・ダウラギリ  
やエベレスト・ローツェなどの名峰を眺望  
(旅行費用 396,000円)

坪井 (75-0998)

#### 寄稿のお願い

退職後は音信も途絶えがちです。それだけに高退協ニュースを旧知を温め、近況を伝える「会員の広場」にしたいと思いますので、皆さんの積極的な寄稿をお願いします。

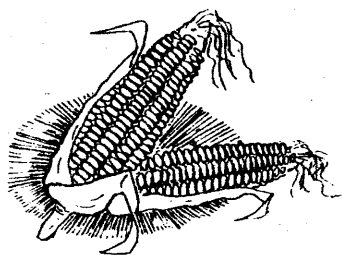
例えば

- 〈わたしの健康法〉(旅の体験記)
- 〈近況やご意見、会員の消息〉
- 〈老眼鏡〉読書、映画などの感想
- 〈俳句、短歌、川柳、詩〉
- 〈高退協へのご意見、ご要望〉

◇紙面の都合で若干調整させていただく場合もありますので、あらかじめご了承ください。

◇原稿送り先 〒780

高知市若草南町10-2 南 千加良 宛



パを頂くこと、後続イベンの宣伝とチケット販売と参加のみである。今年には「日本国憲法五十年を考ふる」をメインテーマに、①高知大空襲、②反戦平和の先人、幸徳秋水と安藤正業、③戦時中資料コーナー、④平和憲法と共に50年、の四つのコーナーである。今日、日清戦争以来のわが国の近代の侵略の歴史を肯定的にとらえようとする「自由主義史観」「自虐史観」に対して日露戦争に抵抗した秋水と正業を取り上げ貴重な資料を両関係者からお借りした。秋水関係50点余りは中村市立図書館保存が中心で、「記録する会」が民間任意団体であることから借用が難行したが、高知市長の副申書と地元の水研究會のご尽力でやっと漕ぎ付けた経緯がある。安藤正業は愛媛・土居町で秋水より5歳年上(一八六六年生まれ)、秋水が40歳で一九一一年刑死したのに対し、戦後の一九五三年に87歳、予言した愚かな戦争の結末を見届けて天寿を

全うしている。7日、窪田充治氏に運転をお願いし川之江から松山寄り6ちほどのその生誕地に、正業研究家である甥の山上次郎氏(85歳)を資料返却と記念碑見学にお訪ねした。日露戦記念碑に県議員であった正業は「戦争の根絶には忠君愛国の四字を滅すべし」と書き、戦死者の墓に「徵兵之一大背理、戦争之一大惨害」と刻みその死を悼む。6年後官憲の知るところとなり碑文は抹殺され東京で逮捕される。秋水露の戦勝気分のみならずに刻むという壮絶な志である。二名の戦死者の碑文は現存し、文字を抹殺されたものの記念碑は地元の神社の境内に数年前に復元された新しい碑文と並び立つ。碑の前に立ちその哲理の深さに圧倒される。なお、氏には6日展示最終日に民権記念館に一族の方とお越し頂き「愛媛ではなかなか顕彰が進まないなかで、高知ではこんな立派な会場で秋水と並んでの展示」に感謝の言葉まで頂いた。二日間、終始ご同行頂いたのは正業が大伯父になつた。氏は愛媛では数少ない組合員として教職を全うされた同和教育の実践家である。正業と両山上氏の新たな出会いの始まりである。この日、同場所「四国平和教育研究交流会」が香川の代表(高教組OB)を交え、早速山上氏をお招きし問題提起をうけ、政治に次いで平和教育研究交流でも「四国は一つ」は流れ始めた。